

はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 令和3年 1月 8日 No.27



令和3年が始まりました。昨年はコロナウイルスのために、多くの学校行事が中止や変更になったり、密を避けるために、友だちとも思い切り楽しく活動することが制限されてしまったりすることが多くありました。今年はいよいよ明るい1年が送れるといいですね。

今回は記憶に弱さのある子どもの特質について学びました。今回は具体的な支援方法について学んでいきたいと思えます。『ワーキングメモリを生かす効果的な学習支援 学習困難な子どもの指導方法がわかる！』湯澤正通・湯澤美紀著 学研 を参考にさせていただいています。

特集 記憶とはどういうものか？(2)

1. 支援の前にすべきこと

単に「記憶が苦手」というだけではなく、背景を探ることが大切です。次の4つの視点から方向づけていくとよいかもかもしれません。

① 言語的短期記憶	先生の指示が覚えられない。復唱が苦手。九九を覚えられない。
② 言語性ワーキングメモリー	作文が苦手。友だち同士の会話について行けない。文章の意味がわからない。
③ 視空間的短期記憶	教科書のどこを読んでいたか見失う。黒板をノートに写すのに時間がかかる。図形を描くのが苦手。地図が読めない。
④ 視空間性ワーキングメモリー	ダンスなどの流れが覚えられない。「周りは何をしていると思う？」と言われても行動に移せない。

2. 支援方法

① 言語的短期記憶（言葉での情報を覚えることが苦手なタイプ）

言葉の説明だけではなく、視覚情報を添えるようにします。黒板には必要なことを箇条書きにします。図工などは見本を用意し、切る場所や糊をつける場所を具体的に伝えるようにします。どうしても言葉だけで説明をしなくてはならない時は、1つの文に1つの情報にします。「体育の帽子を持って校庭に出るよ」ではなく、「体育の帽子を用意します。校庭に行きます。」などと伝えます。

九九は音と数字の結びつきがわからなくなってしまうことが記憶の混乱の原因になることもあります。いつもは「ハチ」と言っている8を「ハ・パ・ワ」と言ったり、7(シチ)と4(シ)の音で混乱することがあるようです。覚える際に「シチ・シ」ではなく、「ナナ・ヨン」でもよしとします。また、暗記の際に「10秒以内に言えないといけない」というルールを作ったり、「7の段をランダムに出題するテストに合格しないといけない」というのは取り払い、ゆっくりでもいいですし、数字の昇順のままでもよいので、覚えることを優先させるようにします。

② 言語性ワーキングメモリー（言葉での情報を聞いて覚えながら考えることが苦手なタイプ）

黒板に書いたりプリントを作ったりする時に、文節で少し切るようにします。「百歩走ったと

ころでにげるのをやめました。」を「百歩 走った ところで にげるのを やめました。」と区切ります。このように視覚的にもわかりやすく提示すると、イメージを持ちやすくなり、意味の理解の助けになることがあります。

算数では、イラストを添えて、段階的に質問をするようなプリントを用意します。

問題 540kmを2時間で進んだ新幹線の時速を求めましょう。

新幹線が移動した距離 km

新幹線が移動した時間 時間

時速を求める公式 時速(速さ) = 距離(道のり) ÷ 時間

新幹線の時速は？ 式 答え

作文を書く時に、簡単なメモを用意します。写真も数枚用意し、「いつ・どこで・誰と・何をした」などをまとめられるようにします。

③ 視空間的短期記憶（見た情報を覚えることが苦手なタイプ）

①で一つずつ指示したのと同じように、提示するものも一つずつ提示をします。算数の問題は1問ずつ見せるようにします。プリントを分けることができないようなら、プリントを折ったり、上にもう1枚紙をのせて覆うようにします。見てほしいところに○をつけたり、黒板に書いた大切な語を で囲み、視覚的に重要度がわかるようにします。数を数えるような時には、✓マークを書き込むようにして、数えたのかまだなのかがわかるようにします。

漢字は大きく書いて伝えます。マスや罫線のあるノートを効果的に使います。黒板を全部書き写すのに時間がかかるようだったら、 で囲んだキーワードを空欄に記入するようなプリントを用意します。

④ 視空間性ワーキングメモリー（見た情報を覚え、考えることが苦手なタイプ）

イメージを持ちやすいように、興味のある話題に置き換えて取り組ませるようにします。計算のイメージがわからない場合は、ブロックなどの具体物を使い、計算をするようにします。図形の角度や合同などがよく理解できない場合には、模型を用意し、実際に重ねたりできるようにします。

国語の教科書の内容を吹き出しを使ったイラストに記入する活動を通して、誰が誰に話しかけたのか、誰が考えたことなのかをイメージしやすくします。

その場の状況を把握することが苦手な場合には、「今、みんなは* *しているよ。Aさんも* *の準備をしようね」と具体的な状況を言葉で説明し、見通しを持たせたり、やるべきことを行動として伝えたりします。



覚えることを本人の努力だけに任せてしまうことには限界があります。子どもたちの中には努力しても結果がなかなか出せず、傷ついていることもあります。「頑張って！」だけではなく、「こうすると覚えられるかな？」というものをたくさん提案できるような支援ができるといいですね。